千葉大学
（社会科学・教授・酒井 啓子）

研究交流計画の目標・概要
［研究交流目標］交流期間（最長３年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。）

本研究交流が目指すのは、中東、特にアラブ諸国における近年の若年層の社会政治意識の把握のために、日本およびアジアの事例と中東の事例を比較し、**千葉大学グローバル関係融合研究センター**にその研究ハブを形成することである。が頻発する中東地域では、しばしば若年層の対政府不信や社会的不満の蓄積が、紛争やテロなどの政治的不安定化の原因にあるとされる。一方で近年、レバノン、イラク、北アフリカ諸国で発生している非暴力路上抗議運動は、若年層や女性が中心となった非暴力を基本とした自立的運動である点で、過去の反政府活動と様相を異にしている。こうした傾向は、香港や台湾などでの路上抗議運動や、アメリカの BLM 運動などと相通ずる点が多い。紛争経験国、紛争後の復興途上国において、若年層の政府不信や体制変革への要求が、テロへと転化されるか非暴力運動を通じて市民社会の強化につながっていくかは、国際政治の安定にとっても重要な分岐点である。中東の社会的不満を暴力的行動に転化させないために、眼下の非暴力抗議運動の現状を正確に把握し、その原因を探ることが喫緊の課題である。

上記の目標のもとに、本研究では路上抗議運動が現在進行形で発生しているイラクとレバノンでの現状を中心に①イラク（**バグダード大学**）、②レバノン（ベイルート・アメリカン大学［**AUB**］）、③カタール（**カタール大学**）、④ヨルダン（西アジア・北アフリカ［**WANA**］研究所）と共同で現地調査を行い、中東の路上抗議運動研究ネットワークを確立する。上記をネットワーク対象とするのは、①千葉大学がイラクの諸大学と既に学術交流協定を締結していること、②レバノンの **AUB** はアラブ諸国の研究者が近年形成したアラブ社会科学評議会（**ACSS**）の拠点であり、ネットワークの拡大に貢献できること、③カタールはアルジャジーラ衛星放送など汎アラブ情報網や学術交流のハブの役割を果たしていること、④ヨルダンは、周辺の社会的不安定な国々からの難民を多く受け入れ、地域安定化のキーとなる国であることが理由である。

アラブ諸国での路上抗議運動の事例研究は、アジアでの同種の抗議運動と比較することで、**非欧米社会における社会運動の全体像を描き出す**ことができる。千葉大グローバル関係融合研究センターがすでに構築したアジアの社会学系研究者とのネットワークを、中東の路上抗議運動研究ネットワークと結節する。

路上抗議運動の世界大での拡大は、社会運動研究にとどまらず人文社会科学全般において、**次世代の若手研究者が避けて通れない現代的課題**である。そのため、路上抗議運動が表象する諸問題についての関心を若手研究者の間に喚起し、国際問題の解決を問題の根幹から志向しアジア、中東など非欧米社会の情勢に精通した人文社会科学研究者へと展開させる。特に、千葉大学は「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成臨床人文学」卓越大学院事業を実施しており、中核となる研究者を育成する環境が整っている。

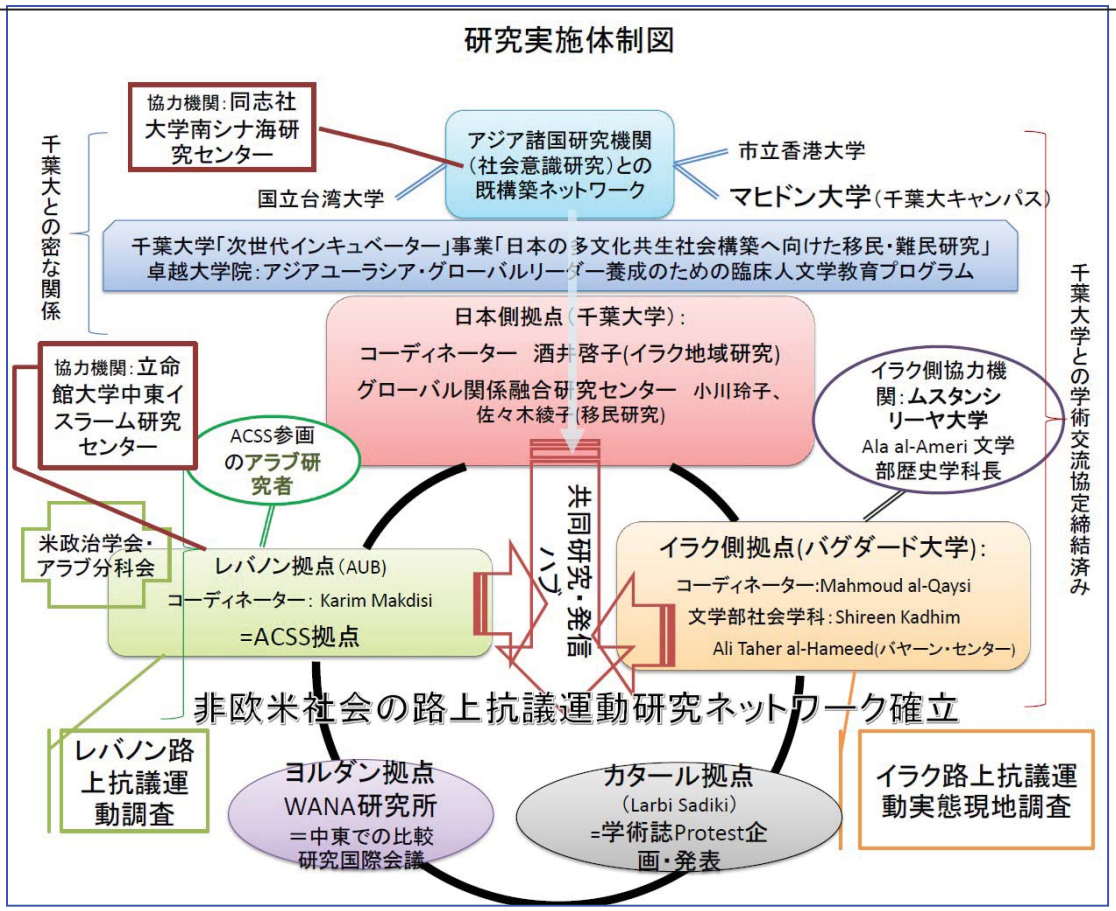
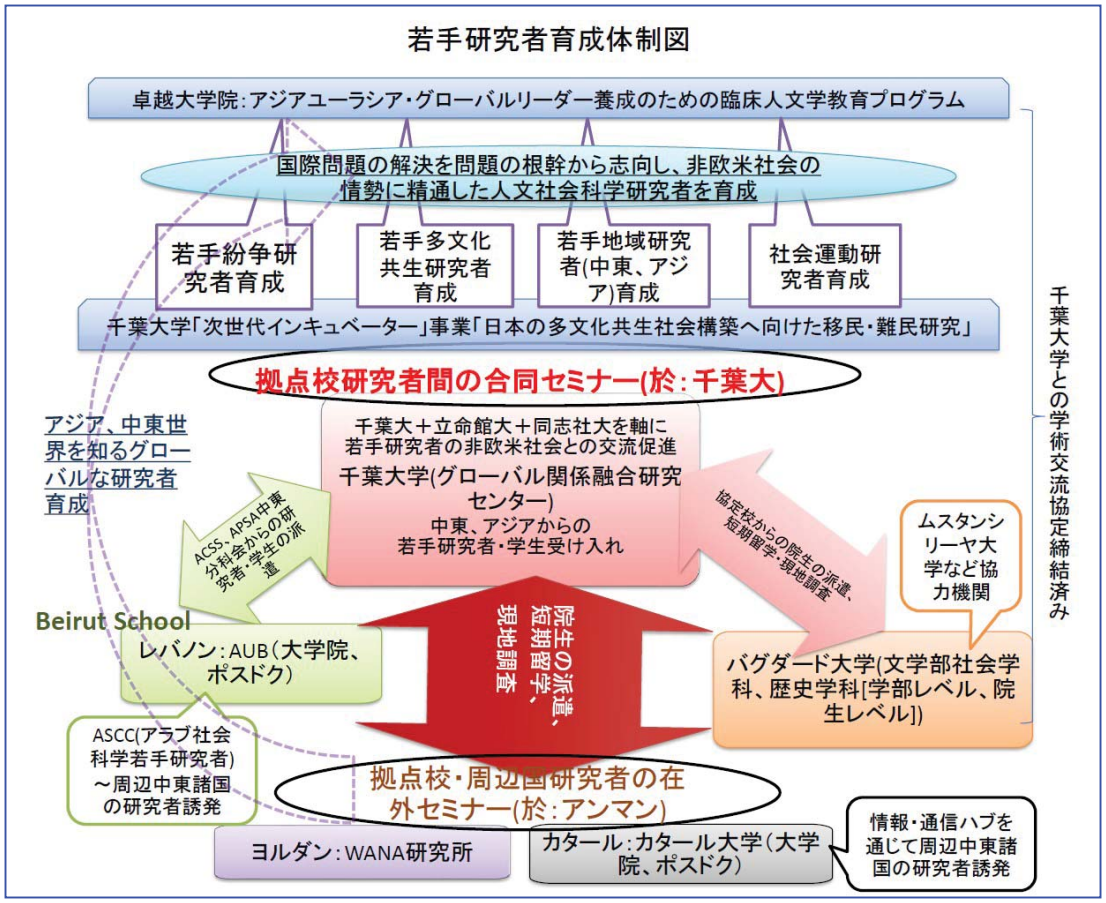
［研究交流計画の概要］我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせて実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

本研究交流では、以下の方法で研究交流を実施する。

①共同研究：千葉大学（日本側拠点機関）のグローバル関係融合研究センターと、バグダード大学（イラク拠点）、AUB（レバノン拠点）、カタール大学（カタール拠点）、WANA 研究所（ヨルダン拠点）の間でアラブ諸国の若年層を取り巻く社会環境、その社会意識と国民意識について共同研究する。特にイラク、レバノンでは、紛争経験者の間での社会意識、国民意識に紛争経験が与えた影響、抗議運動への参加動機と将来展望などを調査分析する。その際、宗派やエスニシティなどの伝統的社会要因や域内・国際関係のなかでの社会変化、市民社会との関係について、インタビューやアンケートを用いた共同現地調査を行う。

②セミナー：各拠点での調査研究を、ヨルダンおよびカタールに結集して比較研究のためのセミナー、ワークショップの開催と学術誌による発表を行う。日本でのワークショップ、国際会議を開催に加えて、治安面、covid-19 感染拡大の理由から比較的リスクの少ないアンマンに、日本やアジア諸国から社会意識、抗議運動の専門家を派遣し、中東諸国の事例と比較する研究セミナーを開催する。

③研究者交流：中東諸国の社会運動研究者と間の交流に加えて、香港、台湾などアジア諸国での運動事例を日本を中心に研究を結集し、日本をアジアと中東の研究者交流のハブと位置付ける。特に、若手研究者育成のために日本およびアジアの社会運動研究を志向する若手研究者を中東から日本に招聘、千葉大学の他、協力機関である立命館大学、同志社大学などの研究者を交えてネットワーク確立を図る。

千葉大学
（社会科学・教授・酒井 啓子）

［実施体制概念図］本事業による経費支給期間（最長３年間）終了時までに構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。